

NETIS 新技術情報提供システム

New Technology Information System



NETISとは [新技術の検索](#) [新技術の最新情報](#) [新技術の申請方法](#)

NETISのRSS
配信

[RSS](#)

[サイトマップ](#)

新技術概要説明情報

「概要」「従来技術との比較」等のタブをクリックすることでそれぞれの内容をご覧することができます。関連する情報がある場合は画面の上部にあるリンクをクリックすることができます。

[更新履歴](#)

ものづくり 日本大賞	国土技術 開発賞	建設技術 審査証明 ※		他機関の 評価結果
		★		

2016.11.02現在

[ページ印刷用表示](#)

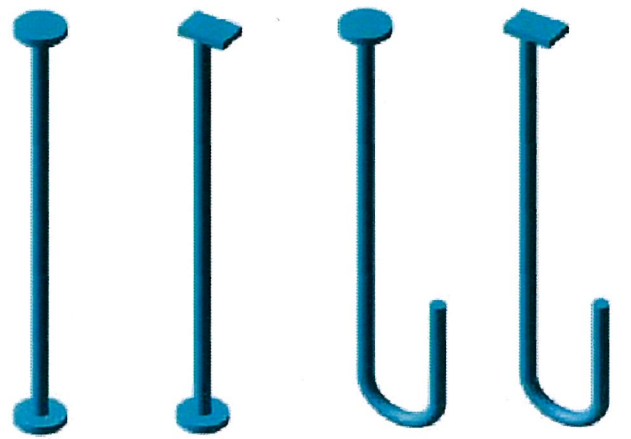
[一括印刷用表示](#)

技術 名称	Head-bar(ヘッドバー)			事後評価済み技術 (2011.06.17)	登録 No.	KT-010207-VR
事前審査	事後評価		技術の位置付け(有用な新技術)			
	試行実証評価	活用効果評価	推奨 技術	準推奨 技術	評価促進 技術	活用促進 技術
		有	旧実施要領における技術の位置付け			
			活用促進 技術(旧)	設計比較 対象技術	少実績 優良技術	
			(平成26年度～ 平成27年度)	(2011.7.19～ 2014.2.14)		
活用効果調査入力様式			適用期間等			
-VR 右から調査様式をダウンロードし 下下さい。			活用効果調査の評価項目が変更されています。 -VR評価:平成28年3月18日～ 活用促進技術(旧)平成26年4月1日～平成28年3月17日 設計比較対象技術 平成22年7月10日～平成26年2月14日			

上記※印の情報と以下の情報は申請者の申請に基づき掲載しております。申請情報の最終更新年月日:2016.03.17

[概要](#) [従来技術との比較](#) [特許・審査証明](#) [単価・施工方法](#) [問合せ先・その他](#) [詳細説明資料](#)

副 題	プレート定着型せん断補強鉄筋	区分	材料
分 類 1	コンクリート工 - コンクリート工 - 鉄筋工 - 鉄筋工		
概要			
①何について何をする技術なのか? プレート定着型のせん断補強鉄筋である。 ②従来はどのような技術で対応していたのか? ・従来型の鋭角フック、半円形フック、コの字型せん断補強鉄筋を複雑な手順で時間をかけて組む。 ・二分割し重ね継ぎ手にして組む。 ・機械式継ぎ手で繋ぐ。 ③公共工事のどこに適用できるのか? ・橋梁 ・トンネル二次覆工 ・地下駐車場 ・ボックスカルバート ・ボックス型ケーソン 等の構造物のスラブ、壁のせん断補強鉄筋、柱、梁の中間帯鉄筋として摘要できる。			



両端プレート

片端プレート

片端フック

Head-barの形状の色々

新規性及び期待される効果

①どこに新規性があるのか?(従来技術と比較して何を改善したのか?)

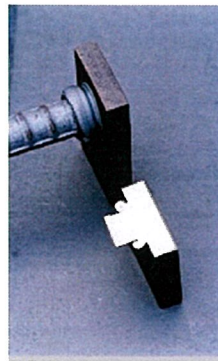
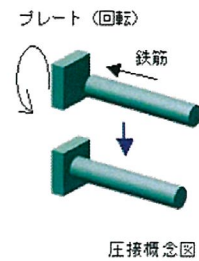
新規性:付着定着から支圧定着へ

半円形フック(付着定着)の定着工法をプレート定着型の定着工法(支圧定着)にした。

これにより、組み辛かった両端フックのせん断補強鉄筋の組立が、片方をプレート定着にする事により組立が非常に簡単になった。

②期待される効果は?(新技術活用のメリットは?)

- ・施工性が改善され工程短縮になる。
- ・ピッチや配置の正確性が良くなり品質が向上する。
- ・半円形フックと同等以上の定着性能を有する。
- ・半円形フックと同等以上の座屈抑止性能を有する。
- ・半円形フックと同等以上の靱性を有する。



摩擦圧接概念図及び組立状況

適用条件

- ①自然条件
制約条件特になし
- ②現場条件
特になし
- ③技術提供可能地域
技術提供可能地域については制限無し
- ④関係法令等
コンクリート標準示方書

適用範囲

- ①適用可能な範囲
SD295、SD345、SD390の鉄筋でD13~D51の範囲でせん断補強鉄筋として適用出来る。
- ②特に効果の高い適用範囲
1.耐震設計上、過密配筋になった構造物のせん断補強鉄筋(両端半円形フック、両端フックのラップタイプ、コの字型せん断補強鉄筋等)の形状変更
2.コンクリート被りがぎりぎりの場合半円形フックより被りに余裕が出来る。
- ③適用できない範囲
疲労が問題となる橋梁上部構造の軸方向鉄筋
- ④適用にあたり、関係する基準およびその引用元
「コンクリート標準示方書(2002年制定)」9.5鉄筋の定着及び「同改訂資料」⑥1.3定着構造例(プレート定着)

留意事項

- ①設計時
半円形フックと同等以上の定着性能を有するものとして、従来型のせん断補強筋の個所を変更出来る。
- ②施工時
鉄筋組立時に主筋の座屈抑止及びコンクリートの拘束の為にプレートを確実に鉄筋に掛けて、コンクリート打設時に外れないように結束線等で固定する。
- ③維持管理等

現場にてHead-barを保管する場合はさび、埃等から保護する為にシートなどで覆いをかける。
④その他

このシステムはInternet Explorerの文字サイズ「小」で開発しております。

[プライバシーポリシー](#) /

[著作権等について](#)

Copyright 2004, New Technology Information System.All Rights Reserved..